

広報広聴委員会 会議概要

日 時	令和 5 年 2 月 20 日（水） 10：00 ～11：12
出席者	☒ 屋良千枝美委員長 ☒ 又吉亮副委員長 ☒ 松田朝仁委員 ☒ 下地崇委員 ☒ 上里広幸委員 ☒ プリティ宮城ちえ委員 ☒ 座間味万佳委員 ☒ 嶺井拓磨委員 ☐ 宮城政司委員
協議事項	1. 議会報告及び市民との意見交換会の開催方法について
配付資料	【資料 1】 議会報告及び市民との意見交換会 開催方法の変更案 【資料 2】 意見交換会（グループワーク）進行（案） 【資料 3】 第 4 回の資料一式
会議概要	1. 議会報告及び市民との意見交換会の開催方法について 事務局より議会報告及び市民との意見交換会の開催方法について正副委員長及び事務局案の説明を行った。 議員からは次の質問があった。 ★これまでのやり方についての質問 ・ 4 日間開催した際には連日来る市民がいたと聞くが、どれほど来ていたのか。 （事務局回答） それほど多くはなく、多くても 5 名程度。 ・ 会場での発言者はどれほどいるのか。 （事務局回答） 発言が長い方もおり、一概には言えないが、6 ～ 7 名程度か。 ・ 前回いただいた意見はみな会場での発言なのか。 （事務局回答） 会場ではアンケートも実施しており、その中での意見記入も含まれている。それは持ち帰って分科会で検討した上で回答している。 ★正副委員長・事務局案への意見 ・ これまでのやり方とグループワークのメリット・デメリットを考慮して迷っている。 ・ 厳しい長い意見であってもそのまま聴取すべきであり、これまでのやり方でいくべきと考える。 ・ 基本これまでのやり方でどうかと思うが、グループワークについては今後協議が必要と考える。 ・ グループワークでよいが、インターネット上でも並行して行うのであればそちらにも力を入れてほしい。 ・ 委員会の決定に従うが、多くの市民の意見を聴取できる方式が望ましいと考える。

・グループワークについては反対ではない。今後の議論をまた持ち帰って検討したい。

(事務局より補足)

・前回厳しい意見が相次ぎ、他の意見を持つ市民が発言する時間がなかったことに加え、講義方式だと対立的な雰囲気になってしまう。それを改善する目的でグループワークの提案が出されていた。

・グループワークの際には、幅広い意見も拾えるようなテーマを設定することを考えており、批判的な意見についてもその中で述べていただけることが可能となるように考えている。

★正副委員長・事務局案への質問

・グループワークの際の時間配分について伺いたい。グループワークの事例を確認すると、慣れてきて盛り上がってきたところで時間が切れることが多いようである。

(事務局回答)

議会報告に関しては、資料も簡略化し、時間も短縮した上で、それに対する質疑等もグループワークの中で行ってもらうことを想定している。

・議会報告会が高齢者も多く、その人たちにはグループワークは難しいと考えるため、前回同様でもよいかと考える。発言できなくてもアンケート等で意見は吸い上げられると思う。その点の対策はあるか。

(事務局回答)

高齢者にはなじみがない方式であり、御意見はもつともな面がある。今のところ考えているのは、グループワークの際には、付箋紙の書き方の例等をあらかじめ示しておくことや、付箋紙も様式のような形式にし記入しやすいようにする等を考えている。

・グループワークになると、各グループの記録を取る必要があり、事務局の負担にならないか。

(事務局回答)

記録係は議員で行うことになっており、グループごとに記録係を配置する予定である。

・グループワークにはファシリテーターが重要となり、またクレーム等の対応も必要になる事案も考えられる。リハーサル等も回数を重ねる必要があるのではないか。また、ファシリテーター用のマニュアル等も必要ではないか。

(事務局回答)

ファシリテーターの養成は課題であり、リハーサルも回数が必要と考える。批判的な意見に関してはその場では回答せず、議会に持ち帰って検討

して回答する方針を共有する必要がある。マニュアル等については作成していく予定である。

- ・グループワークの終了後には、会場で意見を共有できるように報告の時間を設けてはどうか。

(回答)

時間の制限もあり、今回は含めていないが、委員から要望があれば検討したい。

今回の議論を受けて、会派持ち帰りとし、次回までには決定することとする。